

第17号 令和8年4月

後援会討議資料

2期目のチャレンジ

びんご府中

復興プロジェクト第2章



府中市議会議員

真田 さなだ
みつお

全国市町村国際文化研修所(JIAM)

2/2-3



【研修】人口減少における地域の課題

① 地方創生とは

地方創生とは、人口が減っても地域が続く仕組みをつくることです。産業の衰退、交通縮小、買い物不便、空き家増加などの課題をビジネスや連携・人づくりで解決すること。

★『ポイント』は、

- ・行政だけでなく企業・大学・市民の協力が必要
- ・CSRからCSVへ
地域課題を「コスト」ではなく「ビジネスチャンス」と捉えることが重要
- ・「小さな拠点」を地域につくり、小さくても機能する地域をつくる
- ・「人口減少を止める」より「人口が減っても回るまちづくり」が重要

② 参考になった点（CSRからCSV）

- ・地域課題の解決×利益の追求し事業化を目指す
- ・若者は地域課題に前向きな人が多い
- ・行政は実行者より“つなぐ役割”に徹する
※CSV (Creating Shared Value) とは「共通価値の創造」

③ 皆さんはどのような関りが出来そうですか

- ・プレイヤー（実行者）として
- ・サポーター（支援者）として
- ・コーディネーター（つなぐ人）として

プロフィール

1963年1月生まれ

府中市出口町出身

趣味：読書・ギター 特技：神主

府中市立広谷小学校・第二中学校 卒業

広島県立戸手商業高等学校 卒業

日日是好日「ENISHI」代表

2022年4月 府中市議会議員

初当選 1期4年目

○厚生常任委員会 副委員長

○議会運営委員会 ○広報広聴特別委員会

○創生会



真田 さなだ
みつお

真田みつお後援会事務所

サポーターの皆さまへ。
もう一步、応援のお願いです。

もし可能でしたら、看板の設置にご協力いただけませんか。無理のない範囲で、ご検討いただければうれしいです。お気軽にご連絡ください。

QRコードを読み取ってもっと身近に！



最新の議会報告や政策、イベント情報をスマホからすぐにご覧いただけます。このQRコードを写真に撮るだけで、すぐにアクセスできます。是非、一度ご覧いただき、応援の声をお寄せください。

真田みつお後援会事務所

〒726-0003 府中市元町 439-13

TEL:0847-45-2810 FAX:0847-44-6096

<https://www.sanadamitsuo.com/>

E-mail: magokoro@pear.ccjnet.ne.jp

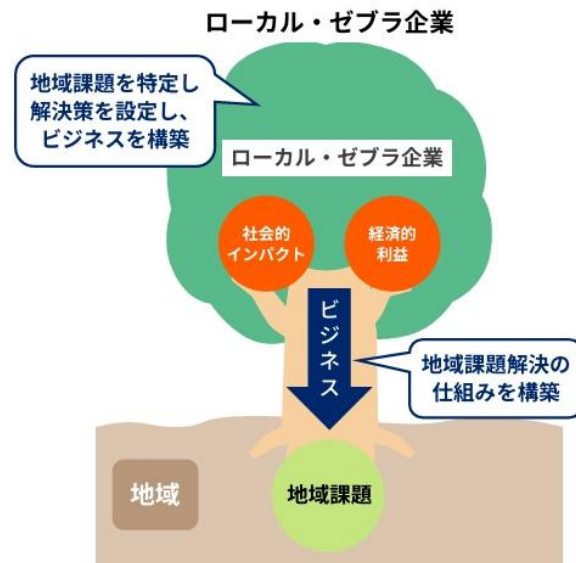
令和8年第2回（3月定例会）一般質問
「人口減少時代の共創まちづくり」

質問：
地域課題をコストではなくビジネスチャンスと捉える「CSV（共通価値の創造）」の考え方を、市政に取り入れる考えがあるか伺う。

答弁：
CSV（共通価値の創造）の考え方は参考になる理念と認識しています。現在、空き家活用や移動販売など民間による取組も見られますが、市として具体的な施策はまだ十分ではありません。今後は他自治体の事例も参考にしながら、地域課題とビジネスを結びつける府中市らしい取組について研究してまいります。

質問：
熊本大学の「未来創造塾」は、日本商工会議所青年部と連携し全国で420名以上の修了生を輩出していますが、中国・四国地方ではまだ実施されていません。そこで「仮称：府中未来創造塾」として地域の課題解決に取り組む場を設けてはいかがか。

答弁：
地域課題について議論できる場の必要性は認識しています。今後、他地域の様々な事例を研究しながら検討してまいります。



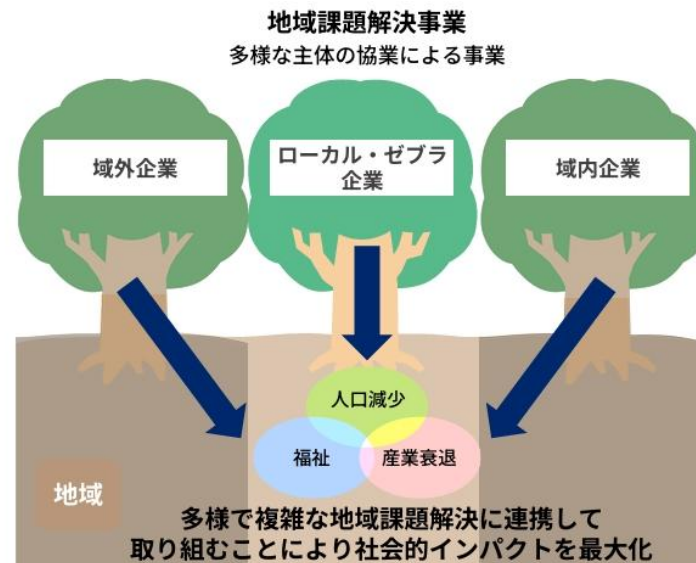
令和8年第2回（3月定例会）一般質問
「安心の救急搬送と道路改善」

質問：
中山間地域や僻地において、幅員の狭い道路や離合困難な区間など、救急車両の進入や通行に支障がある所を市として把握しているか伺う。

答弁：
幅員が狭い道路や離合が困難な区間になど、救急車両の進入や通行に支障がある所について、市道に関して一定程度把握していますが、市内全域については、すべてを網羅しているわけではないという認識です。

質問：
道路改良について、市としてどのように課題を整理し、優先順位をつけ、県へ要望しているか伺う。

答弁：
優先順位のつけ方は、交通事故の危険性や災害リスクなどの安全性。道路の老朽化などの緊急性。通勤・通学など交通の円滑性。さらに中山間地域など地域の均衡発展の観点から総合的に判断し、優先順位を整理している。地域住民との意見交換、県との情報共有、現地確認を行ったうえで課題を把握し、必要性や効果を示しながら、広島県へ継続的に要望している。



中小企業庁 創業・新事業促進課「地域課題解決事業推進に向けた基本指針」より引用

全国市町村国際文化研修所(JIAM)
2/5-6

【研修】自治体財政の見方
議会は「決算で異常値を早期発見する番人」

1. 決算と予算を“連動”させて読む重要性
決算は「過去の結果」ではなく、次年度の予算編成・当年度の補正・執行改善に直結させるべきである。特に11～12月のタイミングで、決算審査の気づきを具体的提案に落とし込む視点が示された。
2. 財政分析は“森と木”で捉える
經常収支比率などの主要指標で自治体の全体像（森）を把握しつつ、個別事業や費目（木）に踏み込んで原因を説明できることが重要とされた。指標は単なる物差しではなく、政策判断のための「意味づけ」が必要である。
3. 財政状況資料集の読み解き（決算情報の体系）
決算状況調・地方財政白書（マクロ）と、財政状況資料集（ミクロ）を使い分ける方法を学んだ。総括表、財政比較分析表、経営経費分析表、歳出分析表、ストック情報（施設老朽化）など、資料の構造と見方が整理された。
4. 健全化判断比率と“連結視点”の重要性
自治体財政健全化法の枠組みとして、実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率等の考え方を確認した。一般会計だけでなく病院・上下水道など公営企業会計も含めた「連結」で実態把握する必要性が強調された。

5. 主要指標のポイント
（資金繰り／歳出構造／歳入構造／ストック）
資金繰り（実質収支・実質収支比率）、歳出構造（經常収支比率、義務的経費比率、人件費の見方）、歳入構造（財政力指数、自主財源比率）、ストック（将来負担比率）について、しきい値の目安や注意点を学んだ。